

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会 〒136 東京都江東区 夢の島3-2 都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

昭和の民話 「第五福竜丸」

楠木 徳男

馬を走らせながら花を見る
馬から降りて花を見る

これは、「沈めてよいか第五福竜丸」を朝日新聞に投書した武藤宏一氏が『断章』に書き残した詩である。

この詩にこめられた武藤氏の思いが、時代を見る目でもあり、先の投書への視点にもなったような気がする。

去る三月六日、ビキニ被災四十周年と、この武藤氏の十三回忌を兼ねて、私たちは第五福竜丸展示館に集った。

一九八二年一月二十四日、四十歳の若さでガンで亡くなった武藤氏は、多くの優れた遺稿を残していた。その追悼集編纂に関わった方々の集いだった。

その席で、朝日新聞編集委員の岩垂弘氏は、当時を想起して、武藤氏の投書が、この第五福竜丸保存の大きなきっかけになったことを話された。勿論、そこには、前後に原水禁運動関係者や、学者、文化人、美濃部都知事等の熱意

があったことを認めた上でのことである。このことには私も同感した。今一度、展示館の玄関に掲示されている「沈めてよいか第五福竜丸」の投書をふりかえってみよう。

「第五福竜丸。それは私たち日本人にとって忘れることのできない船。決して忘れてはいけないあかし。知らぬ人には、心から告げよう。忘れかけている人には、そっと思い起こさせよう。いまから十四年前の三月一日。太平洋のビキニ環礁。そこで何が起きたかを。」

そして、この船が、今「夢の島」で朽ち果てようとしていることを訴えた。その後半でこう呼びかけている。

「第五福竜丸。もう一度、私たちはこの船の名を告げ合おう。そして忘れかけている私たちのあかしをとりもどそう。原爆ドームを守った私たちの力でこの船を守ろう。いま、すぐに私たちは語り合おう。このあかしを保存する方法について。平和を願う私たちの

心をつつにするきっかけとして。」

第五福竜丸は「夢の島」に再生して残った。今、全国から子どもたちがこの展示館を訪れてそれぞれの胸にその記憶を刻んでいる。

静岡市の西奈南小学校から修学旅行で来館した六年生の作文集では、「今までたくさんのお仕事をし、今はその時のお仕事を思い出しているようでした。もう、おじいさんのような気もしてきました。」と、渡辺麻衣子さんが書いています。そして、全員で『きり絵』の『平和かるた』を作り、ここに寄贈されている。

私は、こうして残された「第五福竜丸」は、後々まで、昭和の民話として語りつがれ、後世に生きつづけるであろうと思っている。

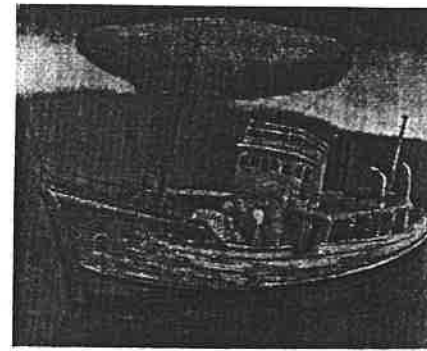
このきっかけを作った武藤宏一氏は、ある友人の誕生日に次の武者小路実篤の詩を託している。

……彼は倒れる迄歩くなり
死ぬまで歩くなり
生きてゐる限り歩くなり
歩けなくなるまで歩くなり
いくら歩いても道は遙かに遠く
つづくなり

武藤宏一は、馬から降りて、今も「平和」を求めて歩きつづけていることだろう。(映画監督)

「ここはもっとも想像的な博物館です。」

三月二〇日、英国ブラッドフォード大学平和学部教授ピーター・バン・デン・ダンジェン氏が来館しました。博士は平和博物館の研究で、一昨年九月、同大学で第一回の国際平和博物館会議を主宰、日本の活動報告に大きな感銘を受け、その実際を視察したいと来日を計画、東京・川崎・埼玉・京都・大阪・高知・広島・長崎・沖縄・など各地の平和博物館を四月中旬まで視察し、来年夏にはオースト



「第五福竜丸」 川上貫一 作

川上貫一氏の作品、展示館に寄贈される

リアで第二回会議を予定しているとのこと。そして来日最初の訪問館が第五福竜丸展示館でした。

博士には藤田秀雄立正大学教授(協会評議員)、坪井主税札幌学院大学助教授らが同行し案内と説明にあたりました。

三月二十五日、江東区在住の画家故川上貫一氏の「第五福竜丸」の連作二点が、照子夫人より展示館に寄贈されました。共に、夢の島に捨てられた廃船の姿描いた三〇号の大作です。

川上氏は主体美術協会の同人として、漁村、炭坑、町工場、埋立地等を描きつづけてきましたが、一九八五年、六三歳で急死しました。夢の島に放置されている第五福竜丸を知って「絵描きとして描かなければ」と連作四点を描いたといわれます。素朴な中にも、川上氏の静かな熱い思いが伝わってきます。



ダンジェン氏 (右端)

りました。

おりから来館中の中学生の熱心な見学ぶりに感銘をえた様子で、「ここはもっとも想像的で興味深い平和博物館です。平和教育のためすぐれた設備です」と来館者ノートに記しました。

久保山すずさんのご家族来館 四月三日、来館者でいっばいのなか、焼津から故久保山すずさんのご家族が来館。長女みや子さんは所用でこれませんでした。次女安子さんと息子さん、三女さよ子さんと夫と高橋生郎さんの一行六人。船室から操縦室、無船室にも入って久保山愛吉さん、すずさんをしのびました。

協会理事会開く 三月二十八日、協会の第一二六回理事会が学士会館で開かれ、新年度の事業計画と予算を決定しました。

事業計画では、第五福竜丸展示館の発展とその運営業務の遂行に力を尽くすことを基本に、写真展、講演会、学芸会の開催やパンフレット、啓蒙書の出版活動はじめいくつかの具体的計画を設定しました。予算の面でも、展示館管理受託費の厳しい伸び率の中で、賛助会員の増員、寄付金の増加に真剣に取り組むことになりました。

(三面よりつづく)

だろう。水墨画を完成させて福竜丸や久保山さんたちの悲しみを多くのの人に知ってもらいたい」とは賀明くん。

「今日は三月一日。ビキニデーです。このビキニデーを初めて知ったときは何とも思いませんでした。でも今では三月一日、ビキニデー、第五福竜丸、久保山愛吉さんと聞くだけで、水爆実験を思い浮かべます。私は第五福竜丸のことにしても、久保山愛吉さんのことにしても、アメリカが水爆実験なんかしなかったら...と思います。久保山さんの最後の言葉は『水爆の被害者は私を最後にしてほしい』です。この言葉をむだにしないために、これから私たちがしていかななくてはならないことは、きつと、水爆実験なんてもう二度と行わない、そして水爆に対して強く反対することなのではないだろうかと思えます」とは貴子さんの決意。

福竜丸はここまで子どもたちの感性を磨きあげてくれた。「ひと」としての久保山さん・大石さん、「もの」としての福竜丸が子どもたちの「こころ」を育ててくれた。「ひと」と「もの」の「こころ」の一年余の学習をもって、子どもたちは巣立っていった。

(前)静岡市立西奈南小学校教諭 (現)静岡市立中島小学校教諭

連載—核兵器の廃絶と国際法③
死の商人

松井康浩

戦争による利得者
銃、大砲、毒ガス、細菌兵器、核兵器と順次殺傷力が大きくなり、その犯罪性は高くなる。ところが戦争では、その殺傷力が大なるほど有力兵器とされ、また大量に殺人するほどその軍人の武勲は高くなる。

戦争に負けたときの悲哀は限りない。したがって各国とも大量殺人兵器の開発に狂奔することになる。軍・産・学が相提携してこれに当たり、巨額な開発資金を国からせしめ、兵器を国に売りつけて儲ける者が出る。米・日の軍事産業はソ連が崩壊しても軍事予算の削減をせず、新たな敵を求め、口実を作って兵器の増産を続けて利益を上げていく。演習による兵器、弾薬、被服などの消耗による新規注文も馬鹿にならない。

かつて北海道恵庭の演習場で不審火があった。それは演習でノルマを消化しきれなかった火薬を燃やしていたのだ。また五、六年前の放火だが、軍需会社の新年演習に防衛庁のO・Bが大勢参加していた。彼らは防衛庁から注文を取

てくるのが役目である。支払いは大蔵省であるから貸倒れの心配は全くない。自衛隊が発足して間もない頃、軍への納入品について政治家の汚職があったが、兵器はコストが軍事機密にされているから利益は明らかでなく汚職が生じやすい。兵器を売って儲ける死の商人は古今東西を問わず汚職を生じやすい。昔のように刀と槍が武器ではなく、大量殺人兵器が出現すると彼らの利益もケタ違いに大きくなる。その財源はすべて税金である。こういう国家体制ができてくるのである。

国際法は、兵器の威力の増大にともない、その規制と戦闘方法の制限に乗り出した。非人道な残酷兵器の禁止と非戦闘員を戦争に巻きこみ加害することの禁止である。毒ガスやダムダム弾、細菌兵器の禁止条約とか、無差別爆撃の禁止条約(砲撃、爆撃は軍事目標に限り、寺院、病院、学校、住居などに被害を及ぼしてはならない)などがこれである。

勝てば官軍という事実状態があった。アメリカの原爆投下にみられるように、国際法は守られにくい面もあるが、国際法違反の責任追及を免れることはできない。われわれは、国際法違反の核兵器を製造販売して利益を上げている非人道な業者と政治家に対して、強い非難を浴びせなければならぬ。

核兵器廃絶の妨害者
核兵器の製造業者は核兵器廃絶に反対することが考えられる。その周辺業者も同様であって、例えばベトナム戦争では、油脂爆弾からインスタントラーメンまでといわれたように戦争利得者は拡大される。国の経済体制が軍国主義的になっていて財界と政府が一体化しているのである。

戦争を遂行する軍部は、命をかけているわけだから、優秀な武器を欲しがることは当然であり、それは限りなく強烈である。かつて自衛隊の将軍がその心理を詳細に語ってくれた。

軍部と業者を結ぶものに政治家がある。ここで軍事国家体制が形成され、核兵器使用を正当化するためのイデオロギーが創造される。そのイデオロギーは核抑止力論にとどまらず多様でかつ統一されており、国家権力(政府)総がかりであっている。

私は外務省へ政府の核政策は誤っている、核兵器廃絶の責任追及を免れることはできない。われわれは、国際法違反の核兵器を製造販売して利益を上げている非人道な業者と政治家に対して、強い非難を浴びせなければならぬ。

子どもたちの第五福竜丸 曾根辰雄

三月一日って何の日? 静岡市立西奈南小学校の子どもたちの調査が始まったのは五十年時代の二月下旬。八ヶ岳と清流のある地球を守ろうという学習活動(水俣病患者さんのみかん作り・私たちの公害列島・森林の不思議・森林を守り育てる人々)も最終段階。全国火災予防運動の日、省エネの日、全国緑化運動の日、ヤマメ・イワナ漁解禁の日、ピキニデー。「なぜ国土緑化の日があるの?」「なぜ禁漁期間があるの?」「第五福竜丸事件ってどんな事件?」三月一日調べをおして新たな問題をかかえこむ。これが子どもたちと第五福竜丸との最初の出会であった。

六年生に進級した子どもたちの修学旅行の目的地に福竜丸展示館が含まれている。「今日は九月二三日。久保山愛吉さんが亡くなって三八年。久保山さんは水爆実験で死の灰といわれた灰をあびてしまったのです。その灰は放射能。それはキューリー夫人が見つけたラジウムです。この日はその乗組員の一人、久保山愛吉さんの死の日です。乗組員にとって九月二三日は国語のノリオ君の八月六日の

ような日だと思いましたが」とは由布子さん。国語学習でのいぬいとみこ著「川とノリオ」の主人公ノリオは母親を広島で失う。「又七の海」のビデオと本にも接する。修学旅行下調べは続く。「第五福竜丸のことを調べていたら『トビウオのぼうや』はびっくりです」という本が見つかりました。その本は第五福竜丸事件をもとにして作られたお話しらしく、幼い子に原水爆の恐ろしさを知らせるためのお話です。明日もっていききたいです」とは千尋さん。焼津市文化センターへもでかけ、下調べは続く。東京へ行って第五福竜丸を見たらどんなふうになるだろうか。

十二月からは福竜丸への思いを切り絵で表現するかるたを作る。「絵を書くときと違ってどのくらい細かくするのか、大雑把にするのか、判断しなければなりません。そのへんが切り絵の難しいところ。コビーをしてみようと切り絵構いかなと思いましたが」とは(ゆ)を担当した裕子さん。水爆反対をとえながら絵札を作っていく子どもたち。五十年時代の三月一日調べから始まった「福竜丸学習」。社会科で、図工科で、国語科で、道徳で、学級活動で、修学旅行で、福竜丸事件を調べ、保存運動を知り、夢の島で船体と対面し、平和かるたを作ってきた子どもたち。

卒業を目前にした三月、小学校生活の総力を挙げて、共同水墨画「福竜丸の図」に挑む。丸木夫妻の「足尾銅毒の図」をまねて。ピキニの海、死の灰の図、ピキニの海、福竜丸の図、久保山愛吉さん入院の図、原爆マグロ魚屋の図、ゴミの島、福竜丸の図、夢の島展示館内福竜丸の図、原爆反対運動の図の七葉からなる「福竜丸の図」を丸木美術館 館に送りたいと提唱するのは啓貴くん。「黒一色だからこそ悲しみが伝わってくるん

(四面下段へつづく)

(反核関東法律家協会会長、協会理事)